ゃの木（酒の銘柄にもなっている）など、寺田優さんにご案内いただく。

〇フジハン醤油でのしょうゆ工場見学

実物でしょうゆの製造工程を解説いただき、生しょうゆの味見も。

〇こうざき自然塾での味噌づくり工房見学

こうざき自然塾は、神崎で作られた米、大豆、菜種によってみそや麹、菜種油などを生産する工房で、当日は麹づくりの作業中だった。代表の鈴木一司と奥さんに麹づくりをうかがいながら、甘酒と味噌や菜種油、もちの試食をさせていただき、神崎地域の農作物とその加工品についてお話をうかがった。

〇月のとうふ店の見学

神崎の大豆と寺田本家と同じ井戸水でつくる豆腐が評判の豆腐店で、こうざき自然塾で作られる大豆のおいしさからこの地で開業された。店ではこうざき自然塾の産物やフジサキ醤油店の商品など地元にこだわった商品も販売している。

〇寺田本家に戻り、商品倉庫となっている蔵など見学。おみやげの購入など。

15:20　寺田本家出発　（高速道で新宿へ）

車内でアンケート記入、

18:00　新宿到着、解散

(4)参加者アンケートから

1）このツアーであなたにとって「この場所での特別なもの」になったことはありますか？

- 酒蔵ツアーが体験型で、個人的にとても楽しかった。様々なタイプのお酒について学び、それからゆっくりと素晴らしいランチをいただけたことが特に良かった。また、職人さんたちに会えたこと、そして麹の部屋で歌われた歌も興味深かった。
- 日本の食がどんなに多様に、伝統的に作られているかを見学し、味わうことができて、このツアーのすべてが特別だった。酒蔵は伝統的でオーガニックで特によかった。酒蔵のご主人が地元を案内してくださったこと、奥さまが素敵な！ごはんをつくってくださったことにも感謝したい。
- ①酒造りの様々な工程を体験、見学できたこと　②味噌造りの方とお話し、交流する機会をもてたこと。
- このお仕事が文化、伝統、地域、そして自然の資源といかに結びついているかを知ることができた。
- 酒蔵での見学、むし米からはっこう中のお酒も、できたお酒までいろんな味見ができて勉強になった。
- 伝統的な方法で酒をつくるところもしょう油をつくるところも全て私にとって特別なことだった。
- 伝統的なお酒づくりを生で感じることができたこと、昔からの自然な状態でのオーガニックな酒、しょうゆ、みそづくり、こうじなどが、とても印象深く感明を受けた。
- ①寺田本家でお昼を食べながら多種類のお酒を試飲できたこと
- 甘酒とこうじみそが美味しかったこと及び作り方が簡単だと教えて頂いたこと。
- ①働きながら楽しく歌をうたうこと　②素材をこだわり、おいし食事をいただくこと
- 人々に対して、真摯な態度とやさしさ
- 今回のツアーでは、農家で自分が作った料理を食べられる。原料もこの地域で取ったもの、新鮮さ

がとてもいい。また、保存料など入っていないみそは普段の生活で買うことができない。

- 実際農家に訪問、自分の目で手作業を見て、素材本来の美味さを味わうこと。

2) 今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- （はい）このツアーの予約ができるウェブサイトがあればなお良い。行くなら少人数を強く勧めたい。そのほうがより個人的な体験ができて素晴らしいと思う。
- （はい）他とは違う、手仕事的で料理にまつわる体験ができるものとして紹介する。
- （はい）写真を見せ、ウェブのリンクを送って薦めたい。そして今日の「物語」をインスタグラムやブログなどで紹介したい。
- （はい）酒蔵を見学できるところが魅力。
- （はい）歴史のある町、神社、1300 年になる木、300 年前からつづく寺田本家、
- （はい）町から出たもので、お酒をつくり、しょうゆをつくる。
- （はい）体にも良く、見に行くと心にも良くなる地域だと紹介したい。
- （はい）昔からのものづくりやお酒好きな友だちにぜひ勧めたいと思った。
- （はい）中国の友人の Wechat グループで今回訪れた地域の人々の優しさ、素朴なところ、食べ物、お酒を紹介したい。
- （はい）すばらしい地方の人々の生き方。(みそをつくる老夫婦)
- （はい）日本酒の製造過程、実物が見られる。特に今回の寺田本家はほとんど人間の手造りである。機械ではなく、このような日本伝統かつ手作りであることを紹介したい。
- （はい）日本の文化としてお酒の手造りを見学できると紹介したい。

3) この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？

- すべてが期待を上回るものだった。
- 短時間の料理デモンストレーションなど、例えば野菜スティックにはどのように味噌が使えるか、など。
- 味噌造りの方が茶の作り方を説明してくれたのがとても面白かった。この体験をもとに、家族や友人が東京に来た時や今度私がカナダに帰った時にこの茶をふるまって神崎の話をしようと思うとワクワクする。
- とうふ造りも見学したい。
- せっかくのこうじ関連の旅だったのでみそづくりなどの体験や見学ができたらさらによかった。
- せっかく来たので他にもいろいろ。たとえば温泉があったら温泉も体験したい。
- ともに、手作業を経験してみたかった。

4) このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えて下さい。

- 不都合なことはなにもなかった。
- このツアーを見つけて予約をするのだけが大変だった。
- すべてが素晴らしかった！ただし、このツアーのすべての情報 - お店、オペレーター、エコツーリ

ズムなど - を書いた書類などをいただければ嬉しかった。そうすればホームページを見に行ったり、住所や電話などの情報がわかったり、フェイスブックでフォローしたりすることができる。

- お酒の発酵の過程の味見はとても貴重な体験だったが、小さなお酒用の紙コップの準備があればさらによかっただろう。
- 不自由なし。スタッフ達に感謝する。
- あいにく雨が降って移動に少し不便を感じた。
- 日本酒の製造過程に解説図やパンフレットがあればもっと分かりやすかった。
- 多人数と一緒に見学する中、早く動き出さないと 列の後に立ったり、見づらいところがある。試飲や試食などは、人数の気配りが必要。

5) 旅をするとき、どのように情報を集めますか？出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- 旅行ガイド、旅行サイト、友達に聞く、オンラインレビュー。
- ①グーグル検索 - トリップアドバイザー、ボヤジン（注・現地の人と交流できるユニークなツアーを予約できるサイト)。ボヤジンのようなインターネット会社がレビューやツアーの出版物を出して情報を得られるようにしてほしいと思います。②旅行ガイド本（ロンリープラネット）③口コミ
- インターネット検索、ＳＮＳ上の写真、オンラインガイド（japan-guide.com)、口コミ。
- ネット上の口コミをチェック。
- インターネット検索。中でお口コミ情報が重要。
- 出発前：旅関連のブログなどを参考／旅行中：スマートフォンで情報検索。
- ネット検索で、地域の観光案内
- 個人の Facebook などを参考に。
- ネット検索で情報収集。
- 基本ネット検索。あと当地の地図が必要。
- インターネット検索で、Q&A やブログを読んだり、
- 友だちの経験を尋ねる。

6) このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

- みなさんの日常を見られ、人々が本当に親切だと感じた。皆さんが自分たちの仕事に込めている喜びを感じた。皆さんと触れあい、お仕事を間近で見ることができて本当に嬉しい。
- 手仕事に対する深い愛をもった、素晴らしく才のある皆さんだった。
- 実に特別で、他では体験できないものだと思った！ツアーで皆さんと共有できたおもてなしと知識は本当に価値があり、また心あたたかいものであった。ありがとう！
- おいしいものを育てる地域の皆さんの元気な姿をみて、こちらも元気をもらった。ありがとうございます。
- 思った以上にいろいろな勉強ができて、とても楽しかった。また地域の皆さんはとても親切で、ご自分の町に対する愛情も強いのが分かった。ありがとうございました。
- 今日、雨で町並など景観を楽しむことはできなかったのでとても残念だったが、普段出来ない貴重

な体験と美味しいものをいただいたりし、とてもよかった。自然に戻ることを第一に考え、オーガニックな素材、伝統的な作り無添加などで手をかけて食の安全を守ろうとする努力をこれからもずっと続けて下さい。こちらからも応援していきたいと思う。

- 美味しい食べ物とお酒を頂いた。ありがとうございました。
- 家族の団結と責任感を感じられた。日本の伝統文化をまもる精神に感心する。そして、ご馳走してくださいまして、ありがとございます。
- 楽しかった。初めてお酒製造工場の見学はとても面白かった。街全体を「発酵の里」というアピールポイントを出してとても覚えやすくていいと思う。
- 日本の文化を大事して、世界の国々の人々にお伝えするのがとても責任があって大切なお仕事である、ぜひこれからも、本来の姿を保って、そのままに伝えてほしい。
- 今回のようなツアーは若い人よりは、私たちのように家族がいる外国人や中長年の人に向いていると思った。「もう一度訪れる、商品を買う、町の人とふれあう」を自分だけではなく家族や知人などと一緒に出きるのではないかと思う。

(5)主な抽出ポイント

〇昔ながらの伝統的手法で食品を作ることへの高い関心

〇地元の素材を活かしていること、オーガニックであること、手作りであること、無添加であることの高い評価

〇実際の製造工程を見られ、それを食べられることの満足感

〇大人数よりも少人数で体験することに価値を見ている

〇見る以上に体験できるプログラムの希求

〇パンフレットや配布物（外国語による）の必要性

〇実際にモノが購入できることのニーズと喜び

〇情報収集手段はインターネットが強く、ブログ、フェイスブックなど個人による情報を重視

〇地域の人とのコミュニケーション、地域のおいしいものが何より高いポイント

(6)活動写真

お蔵でガイダンス

酒蔵見学

元摺りの工程

麹室での解説

地元食材の食体験

フジハン醤油見学

こうざき自然塾で代表の鈴木さんより

奥さんより味噌の試食

寺田本家の蔵前で参加者

(7)現地受入先による所感（寺田本家）

1）企画内容について

今回、リボーンさんとのご縁で外国の方向けのツアーにご協力させていただきました。

はじめてのことで経験がなかったため、みなさまが望まれることとご案内の内容はマッチしていたのかどうかと考えておりましたが、アンケートの内容を拝見して少し安心いたしました。

当日は神崎町内の農家・こうざき自然塾さんとフジハン醤油さんにご協力いただき、あいにくの雨模様の中でしたが、思ったよりスムーズにご案内ができたかと思います。

2）現状

寺田本家は少人数で昔ながらの酒造りを行っております。そのため施設面や人員面などまだ外国の方々を観光で受け入れるのは難しいというのが実状でございます。

蔵内は水を使うところも多く、通路は広くありません。お土産をお買いいただくにも事務所の一角で対応しており、お客様を迎える状況とは言い難いところです。

こうざき自然塾さん、フジハン醤油さんも生業を行いながらの対応となりますので時季やご参加いただく人数は限られてきます。

また町内には飲食店が少なく、“発酵の里こうざき”の発酵食品や農産物等を召し上がっていただける飲食店はあまりありません。

町中を散策していただく場合、幹線道路には歩道が狭かったり、なかったりととても危ない状況です。

車でお越しの場合は駐車場に困ってしまうのが現状です。

3）今後の見通し

神崎町周辺では、2015 年 4 月 29 日に道の駅“発酵の里こうざき”がオープン、圏央道も神崎ＩＣ～大栄ＩＣが 2015 年 5 月までには開通の見通しとなりました。

このことにより神崎町周辺の人の動きも大きく変わってくることが予想されます。

・見学日・参加人数を限定して安心安全で楽しんでいただける見学の取組。
　お客様お迎えする体制づくり。

・町の公共施設の活用（わくわく西の城）して体験型のツアー企画の可能性。

・寺田本家の隣接地建物のリノベーション、飲食店等に活用を計画中。

神崎町の可能性を広げるお手伝いとして、できるところから少しずつ対応していきたいと思っております。

4.5 京都府美山町

(1)実施概要

日程：平成 27 年 2 月 7・8 日(土・日)

参加 費：1 名 6,500 円

現地対応：田歌舎、野生動物復帰計画

概要：京都の最奥で、日本伝統の茅葺き屋根が残る集落を歩き、山里で受け継がれてきた冬の暮らし方を体験します。地元猟師の手ほどきで、狩猟ととれた獲物の解体、調理など、山の恵みジビエを余すところなく味わい、自然と共に暮らす知恵に触れます。

(2)参加者

＊定員 10 名に対し、17 名の応募があったため、抽選で 10 名を決定した。連絡後、2 月 4 日すぎに 1 名がツアー直前の怪我により、2 名がツアー中の予定変更を希望したのちキャンセルを申し出た。次点のツアー希望者に連絡したが、直前のため叶わず、7 名のままツアーを行った。

国籍	年齢	性別	職業
中国	25	女	学生
インドネシア	24	女	学生
ブラジル／ロシア	27	女	大学院生
ブラジル	33	男	パーソナルトレーナ
アメリカ合衆国	24	男	外国語指導助手
アメリカ合衆国	25	女	英語教師
メキシコ	26	女	大学院生

(3) プログラム概要

【２月７日】

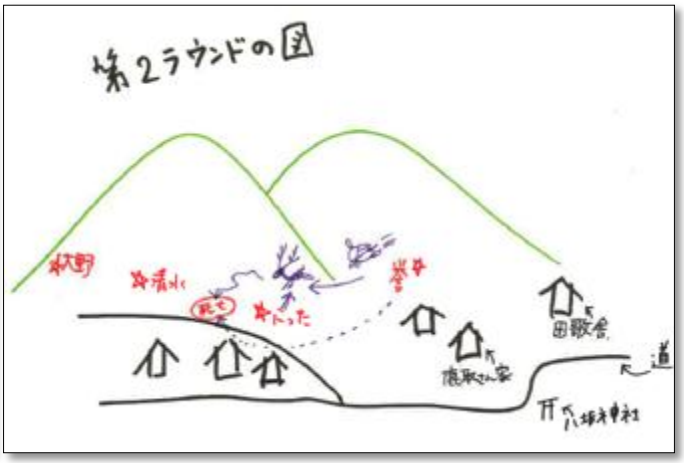
時間	場所	内容
8:30	京都駅八条口	スタッフ集合(バス乗り場)
9:00		参加者集合時間
9:10		全員集合・出発
9:20	車内	アナウンス(主にスケジュールの確認)
10:08	ウッディー京北	トイレ休憩(着)
10:16		トイレ休憩(発)
11:00	田歌舎	会場到着
11:08		オリエンテーション 【田歌舎の紹介(施設を回る)】 永続的な自給自足なライフスタイルを目指して日々奮闘をして　いる。１ha の農業、狩猟や採集を 1 年を通じて行い、衣食住の衣以外とプラスして遊をたした遊食住を提供している。 ・建物は地元の大工さんに教わりながら自分達で建設 ・暖房は薪ストーブ。材は冬前に作っておいたが終わりそう。 ・カモを 80 羽飼いっている。合ガモ農法で活躍するほか、

		卵と食肉になる。 ・畑は雪の中だが、雪の中にニンジン・白菜・ゴボウなどを保存してある。 ・手作りビニールハウスでも野菜は育てている。春先は稲の苗を育てる。 ・近くの養鶏場から古くなった鶏(1.3 歳)を買い、肉にして食べる。 ・ヤギは芝刈り機として夏場活躍し、1 日 1.5ℓとれる乳はチーズになる。 ・獣害被害(シカ・サル・イノシシ)が深刻
11:45	宿泊棟	【スライドショー】 今の季節では見ることができない、夏場のラフティングやキノコ採り、建設途中の様子など紹介。
12:00	宿泊棟	お昼御飯(持参)　男性宿泊棟(200m 離れた施設)チェックイン
13:00	田歌舎駐車場	狩猟体験スタート 【猟師さんの紹介】 鹿取さん(女性猟師)/新田さん(新米猟師)/大野さん(ベテラン)/清水さん(長老猟師) 【狩猟をする理由説明】 戦時中、軍服を作る為に多くの野生動物を狩った時があり、また、オオカミを絶滅においやってしまった。戦後、狩りすぎた野生動物を保護する動きがおこったが、オオカミの絶滅やハンター・野良犬の減少により数が増えすぎてしまった。 数が増えすぎた今、山は丸裸になり、私たちの農作物への被害も深刻となってしまった。山を守る為、自分達の生活の為に私たちは野生動物を狩ります。 【狩猟の仕方】 猟犬で追い立て、高待ち・中待ち・下待ちと呼ばれる場所でそれぞれ待機して獲物を待ちます。
13:20	八坂神社	神様にご挨拶
13:40	知井小学校	第 1 ラウンド 【鹿取班】中待ちにあたる小学校のグラウンドの上の林で待機。シカが横切り発砲するものの、はずす。 【誉班】猟犬 2 頭を放ち、犬の行動や仲間の無線を待つ。「上に行った」との報告を受け、一緒に移動するものの、別の方向に行ってしまった模様。その後、犬が小鹿を単独で仕留め(半殺し)、回収して戻ってくる。

15:30		終了・移動 小鹿のとどめとはらわた出し
15:45	田歌地区	第２ラウンド 【新田班】猟犬が追い立てた大きい雄鹿の腹部に見事命中するも、致命傷にならず。 【大野班】しばらく待機するも、シカが待機場よりも手前に出そうとのことで移動。誉さんが雄鹿の角をつかみ格闘中のところで到着。ナイフでとどめを刺したところで一緒に道路まで引きづりだした。
16:05	田歌舎	到着・雄鹿のはらわた出し
16:17		休憩/入浴 希望者は入浴施設(美山自然文化村　河鹿荘)、他は田歌舎のシャワールームを利用
19:00	田歌舎食事棟	夕食
22:30		終了

【２月８日】

8:00	田歌舎食事棟	朝食
9:10	田歌舎	解体
11:35	田歌舎食事棟	アンケート記入
11:50		振り返り(感想の共有)
12:00		お昼
13:10		出発
13:20	かやぶきの里	到着・自由時間
14:30		出発
16:53	京都駅八条口	解散



（4）参加者アンケートから

1）このツアーであなたにとって「この場所での特別なもの」になったことはありますか？

- 鹿の解体体験がとても面白かった。
- 鹿が本来居るべき自然環境の中にいるところが見られてとてもよかった。とても寒かったが、狩猟体験はとてもワクワクして楽しかった。
- 初めて体験がたくさんあった。中でも地元の方と狩猟に行ったことで、その考え方や人々が周辺の自然とどうバランスをとるかが理解できた。私はここでの生き方そのものが特別だと思う。
- 言うのは難しい。鹿の狩猟は特別だったが、その解体は私にとって本当に「特別な」なことだった。
- 食事が素晴らしかった。
- はい！鹿の解体、皮はぎ、藤原さんが鹿を私の目の前で屠殺するのを見たこと・・・そして収穫したてのニンジンを食べたこと！
- 森の中でハンターと一緒にシカを狩ること。

2）今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？

- （はい）この地域のおいしい食べ物と美しい自然のことを教えてあげたい。
- （はい）自然体験、おいしい食事、地元の方々と対話など素晴らしい体験ができるところと。
- （はい）友人たちに話し、ソーシャルメディアに書きたいと思います。
- （はい）山での暮らしや狩猟について学びたい人にとって、この旅は素晴らしいと伝えたい。しかし、血や内臓を目にするのでちょっと「強烈」かもしれないと警告もするつもりだ。(悪いものではないが、すべての人に良いとは限らないので)。
- このような本当に伝統的な場所での生活を体験したい人に薦めたい。
- （はい）この地域は人里離れた平和で美しいロケーションで、絵のように美しい山々に囲まれている。人々がどのように協力して食物を育て、生計をたてているか、同時に自然を守り、持続可能な方法でそれを活用しているかを目にすることができ、とても興味深かった。
- 田歌舎を友人に薦めたい。狩猟体験も鹿の解体体験も友人に薦めたい。

3）この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？

- 夏にラフティングと釣り。
- もっと山奥まで行ってみたい。ハイキングが好きなので。
- 夏にカヤックやラフティングをしてみたい。この地域の桜の季節も見たい。
- 野生のイノシシも見てみたい。面白そうだから山の中でハイキングもしてみたい！
- 狩猟ワナをしかけるところ。そのワナに獲物を取りに行くところが見てみたい。
- 野菜や果物の収穫も面白そう。釣り、山羊の乳しぼり、チーズづくりもやってみたい。ハイキングやトレッキングも楽しいと思う。
- スキーを体験してみたかった。

4）このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えて下さい。

- なにもかも素晴らしかった！
- 自分たちで野菜を収穫してみたかった。不満はなく、すべてが気に入りました。
- 参加者としてとても快適。
- 鹿の解体体験ができない人向けの代替案があったらよかった。だんだんと慣れはしましたが、気分が悪くなっているあいだ気をまぎらわす術がなかった。
- 寝室とトイレがやや汚なかった。
- 初日の昼ごはん。自分で持ってくるというのは大変。
- 雪の中でのハイキング。
- ロビーの床がきしみ、少々うるさかった。注意して歩いても一歩ごとに音が出てしまった。

5）旅をするとき、どのように情報を集めますか？
出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。

- インターネットで目的地域をリサーチ。だいたいグーグルを使用。
- 普段はホームページを見て、ソーシャルメディアを活用。パンフレットを手に入れるのが難しい場合もあるので、インターネットのほうが簡単。
- インターネット検索。同じ場所に行ったことがある人に聞く。
- フェイスブックと口コミ。
- フェイスブック、インターネット、Ｅメール、友人。
- フェイスブック、グーグル・・・
- 京都府からの連絡があり申し込んだ。

6）このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？

- ツアーは本当に楽しかった。自然との責任ある接し方をより深く理解することができ、貴重な体験だった。地元の方々へ。この生き方がうらやましい。それを経験させていただいたことを感謝いたします。
- ありがとうございました。田歌舎に来られてよかった。スタッフの皆様、とてもフレンドリーに、そしてご親切にすべてを説明してくださってありがとうございました。また来てみたい。またよろしくおねがいします。
- このツアーをとても楽しんだ。とても寒かったですが、スタッフはすべての参加者のニーズに応えようと努力してくれた。ここでの生活がどのようなものか多少なりとも理解したいま、こちらの地元の方々を非常に尊敬する。
- 皆が協力し、必要なものを自然から奪ったり壊したりする代わりに自然とのバランスをとりながら満たしていくという考え方は、村に戻ってくる若い人たちにとってもとても興味深いと思う。ほとんどの人は忘れがちですが、こちらの地域の皆さんはバランスをとるという考え方を守っているのだと気づきいた。
- ツアーはとても楽しかった！こちらの方々の自然との付き合い方の感じがよくわかった。このような生き方ができて皆さんは強いと思う。とても素敵です！
- とても興味深く、面白かった。
- とても良かった。狩猟やハンターの暮らしを見ることができてとても勉強になり、心躍った。

- この機会にとても感謝しています。人々がどのように協力して食物や生活の糧を得ているかを見ることができ、とても面白く感激した。私たちは人間がいかに心ないやりかたで自然を破壊しているかを学んだ。こちらの協働と交流は私に希望を与えてくれた。
- 今回のモニターツアーを通じていろいろと感じる。死の残酷さが感じられないなら、命のありがたさが分からない。動物の中で鉄砲やナイフを使うのは人類だけ。どのように使うのかは人間の知恵と勇気をはかる。ここで出会ったハンターたちは知恵と勇気を我々に見せてくれた。素晴らしい経験をさせて頂きありがとうございます。

(5)活動写真

(6)現地開催者より所感

1）企画・運営

始めての外国の方向けのツアーであったが、企画担当者ならびに地域団体がこれまで海外からの旅行者の受け入れ経験を持っていたこと、また、ツアー期間中を通して関わった通訳案内士の協力により、滞りなく運営することができた。特に、地域を知る通訳案内士の存在が大きい。関わっていただいた通訳案内士は本地域にて 1 年間生活しながら、地元猟師と共に、狩猟に関する経験をしていた。その経験があったために、本ツアーで伝えたいメッセージを的確に参加者へ伝えることができた。結果、参加者のツアーに対する理解度が高まり、満足度につながったと考えている。

2）参加者

集客は、モニターツアーであり、日本に対して一定理解のある方でフィードバックを確実にもらえる方が望ましいと考え、京都府ならびに京都府国際センターのご協力を得て、府下に住む在住外国人を対象に行った。結果、実質的な募集期間は 1 ヶ月程度であったが 17 名の応募があり、無事に開催することができた。参加された方は、1 年以上日本に滞在されている 20 代の方が中心であったため、通訳案内士のちからはもちろんのこと日本語および日本の文化に対しての理解も高く、終了後にツアーに対しての的確なフィードバックをいただけた。

食事や活動内容において、アメリカ、メキシコ、ブラジル、中国、インドネシアと多様な方が集まり宗教や食事アレルギー（小麦)、民族による価値観の中で受け入れられるものか危惧されたが、問題になりそうなことについて、事前に対応したことにより一定の満足がもたらされることが検証された。

特に狩猟や鹿の解体体験時での参加者の共感および理解度の高さには驚いた。その中でも刃物の取り扱いに関してはこれまで提供した同世代の日本人よりもはるかに高かった。これは、参加者の背景にある文化や生活が、当地域での営みに共通する要素が多くあるのではないかと感じさせられた。(都市部に住む日本人の方が当地域での暮らしと隔絶された暮らしをしているとも言える。)

➪今後の体制整備ポイントの一つ　参加費の参加料徴収方法は銀行振込としたが、在住外国人の場合、問題なさそうである。ただ一部キャンセルされた参加者の中には、支払い方法をひとつの理由として（それ以外にも複数理由をつけられて）取り消された方もおられた。今後は、キャンセルポリシーを明確にし、海外でよく行われている参加時に参加者のクレジットカード番号を聞いておくことや、Paypal やクレジットカードにて事前に支払を完了させるなどの工夫が必要であると感じた。

一部参加者が、個人の事情等で直前にキャンセルされた。これは外国人に限らず日本人でも同様のことが起こる。海外からの旅行者が対象だと想定した場合、今回以上に起こる可能性が高い。開催リスク（最少催行人数が達しない・No Show など）をどう取り扱ってツアー商品化するかは今後の課題である。

3）DMO（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）

当初は、外部との共同の中で行う計画であったが、単発事業でもあり、なかなか役割分担や情報共有がうまくいかず実質的には、当社のみで行わざる得ない状況となった。結果として、募集から当日まで対応が、普段なれない英語での対応ということによりややハードルを感じることで、緩慢なものになったように感じている。

今後、DMO 窓口は、参加者もしくはサービスの利用者とメディア・ラウンドオペレーターをつなぐ窓口機能であるので、当社として外国語対応を含めた人員配置もしくは、当社をラウンドオペレーターとして、その窓口となって旅行者とつながれる第三者とともに、事業化できるように再度仕組みをつくることが必要であると感じている。

4) 今後に向けて

今回の受け入れ経験から以下２つの方法についてインバウンド発展の可能性があると考える。

１つめは､少人数制の受注型もしくはオーダーメイドを高額商品として造成し DMO を通じて販売する。

２つめは、京都市内で活躍されている通訳案内士と協働して、京都市内の観光に飽きられた外国人向けの日帰りアクティビティとして造成する。

ツアーの中身は、参加者のアンケートや実施中での意見交換から、上記の方法を用いて今回行った狩猟体験のみならず、他の季節での、農林業体験や川での漁師体験、自然体験活動なども期待されており、これらについては提供できる活動範囲であるので、これらも含めたツアーアレンジが検討できる。

また、海外の若者たちが本ツアーに関心を持ち参加すると、外国人や地域での活動に興味のある日本人（特に若者たち）が一定数興味をもつと考えられるので、彼ら彼女らが一緒になって活動する機会を提供し、日本人が自らの暮らしや文化を見つめ直す機会を提供するようなグリーン・ツーリズムの在り方の提案ができないかとも考えている。

4.6 熊本県阿蘇市

(1)実施概要

日程：平成 27 年 2 月 20・21 日(金・土)

参加費：無料＊子どものツアー同行希望があったため、子どものみプログラム費・宿泊費を徴収。

現地対応： 田舎体験・交流施設「なみの高原やすらぎ交流館」

〒869-2801 熊本県阿蘇市波野大字小地野 663-1　TEL.0967-23-0555

協力：阿蘇市、阿蘇市観光協会、

概要：「真冬の九州・阿蘇でのホットなグリーン・ツーリズム、体験＆交流のモニターツアー2015 ―――阿蘇カルデラ火山の自然と伝統的な文化が産み出す地元食と暮らしを体感する旅！！」

目的：

外国人のお客様に真冬の阿蘇での日本のグリーン・ツーリズム（農山漁村での参加体験型・交流型・滞在型・創造型の観光）の体験と交流を通じて、日本の冬の田舎と農村集落での暮らしの楽しさ、おもしろさと魅力を体感し、心身ともに元気になるツアーをモニター・ツアーとして企画・実施、評価する。

ポイント・特徴：

1. 外国人の方々に日本、九州型のグリーン・ツーリズムの楽しさ魅力を体感してもらう。
2. 外国人の方々に日本・九州の阿蘇の自然と文化、冬の季節の良さを知ってもらう。
3. 海外に対して、今後の日本のグリーン・ツーリズムの魅力をアピールして行く為のきっかけづくりとする。

(2)参加者

国籍	年齢	性別	職業
イタリア／スペイン	42	男	写真家
スイス	36	女	ビジネスコンサルタント、大学で教師
イスラエル	40	男	不動産業
オーストラリア／日本	43	女	不動産業
スイス	33	女	大学院
フランス	26	女	国際交流勤務
カナダ	28	男	外国語講師

(3)プログラム及び概要

月/日（曜日）	日程プログラム＆活動内容	活動＆宿泊地
第１日目 2015 年 ２/２０（金）	福岡から阿蘇へ（貸切バス）※途中、昼食 １２：４５　阿蘇市役所着 １３：００　阿蘇市へ表敬訪問（宮川清喜副市長を表敬訪問） １４：００　やすらぎ交流館　着　休憩 フットパス体験“阿蘇の田舎道「小池野コース」を歩く！！ ※ホームビジット（縁側カフェ　漬け物、饅頭とお茶等） 【藤井信保・マサエご夫妻宅　】 １６：３０　阿蘇の田舎料理づくり体験 ※だご汁、いきなり団子づくり体験。 【指導：釣井マサミ・釣井ムツミ氏　】 １８：００　阿蘇の田舎料理で夕食交流会 １９：３０～阿蘇の温泉体験リラクゼーション（おゆぶね温泉）	【体験＆活動と宿泊】 なみの高原自然学校 ＆田舎体験・交流施設「なみの高原やすらぎ交流館」 及び、波野地区田舎の集落
第２日目 ２/２１（土）	０９：００　日本の田舎のお土産つくり体験（やすらぎ交流館にて） ※竹ほうき作り 【指導：城井栄作氏　】 １０：３０　そば打ち体験（そばを茹でる体験まで行う） １２：００　昼食※そば １３：００　モニタリング・ミーティング １４：００　参加者は、終了、解散 １４：００　外国人へのＧＴ体験事業相談会 １５：３０ ※ポイント等： ・阿蘇の田舎食づくり体験＆交流を深める。	

(4)．参加者アンケートから

1）このツアーであなたにとって「この場所での特別なもの」になったことはありますか？

・散策、ドライブ中の景色、温泉、食べ物がとてもよかった。

・①地元の方々と会えたこと、手作りのお食事（おばあちゃんやおじいちゃんともっと一緒にいたかった！）。②そば作りは本当に面白かった！初めてで、日本食作りを楽しめた。

・美しい景色、出会ったすべての皆さんのあたたかな歓迎。

・皆さんがとてもフレンドリーだったこと！食べ物、特産品。

・そば作りとほうき作りが一番楽しかった。

・森の中を歩いて植物や木について学び、新鮮な空気やよい景色を見たのが本当に楽しかった。
地元の方々とお会いできたのもとてもよかった、もっとたくさんお話しする時間がほしかった。

2）今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？もしそうなら、どのように紹介しますか？
・親切な人々と素晴らしい食べ物があるとても美しい田舎の地域だと薦めたい。
・友人たちにこの地域を、都市で働く彼らの生活の「休息の場」として薦めたい。この地域はストレスや不健康な環境にいる人が、リラックスし、あたまを空っぽにするのに最適。謳い文句は「阿蘇で心をリフレッシュ、そしてエネルギーあふれる都会に帰ろう」！
・学生やバックパッカーなど、１８才から４０才ぐらいの人に。日本を知っていて日本の田舎や伝統についてもっと知りたいと思っているような人々に薦めたい。
・はい、必ず。特に学校や旅行者のグループ、若い人たちに良いと思う！
・自分の家や地元の特産品を喜んでシェアしてくれる心あたたかな人々がいる、とても友好的な地方として薦めたい。
・友達に薦めたい。ここは田舎のとても静かな場所で、新鮮なオーガニックフードやかわいい旧校舎での滞在が味わえると伝えたい。昔の教室に泊ったのはとても良かった。バックパッカーや学生にはよいツアーだと思う。年配者にはあまり向いていないかもしれない。

3）この地域をまわって、なにか他に体験したかったことはありますか？
・夏であればスイカをたくさん食べてみたい。またレンコンも。
・農業の畑で作業し、地元の方々をお手伝いしてみたかった。
・遠くからでもよいので阿蘇火山を含め、景色の写真をとる時間、散策の時間がもっとほしかった。地元のお店に行く時間があればよかった。
・地元のお店にもっと行きたかった。窯元や地元特産品の職人の技を見てみたかった。
・買い物、地元のレストラン、自然の中の散策をもっとしたかった。
・乗馬が好きなので牧場をやっている地元の方に会えたら素敵と思う。植物や自然について新たな発見をしてから農作業や牛、羊、牛（この地方で有名な！）、豚などにえさやりができれば。
特産品市場はとても素敵だった。とてもよい経験になり、お土産ができたのも良かった。

4）このツアーで不自由だったことがもしあれば、それはなんでしたか？提供されれば
良いと思われるサービスや、必要ないと思われる要素があれば教えて下さい。
・いつ食事をとるか、もう少し時間があるかの説明があったら良かった。食事はとてもおいしかったが、食事準備の待ち時間がもう少し短いとよかった
・１．森に入る前に靴を変えて、と言ったほうが良い。少し汚れてしまった。
　２．日本では時間通りが大切だが、ヨーロッパの人々はもっとゆっくりのペースを好む。もっと自由時間があり、オプションの活動も一つだけではなく二つが良いと思う。（選べるような）
・初日のスケジュールがタイト。バスの外でのランチ休憩の時間があったらよかった。オプションの活動は全部が全部なくてもよかったです。人より長く休憩がほしい人もいるので。西洋の旅行者は「ツア

ー」に慣れていず、よく個人で旅行をするので。もっと自由さが必要。
・スケジュールがややタイト。すべての活動が選択可能であればよかった。人はそれぞれみな違い、それぞれに異なるスケジュールがある。
・ペースをもっとゆっくり、休憩や自由時間をもっとたくさん、子どもたちへの配慮や行事がもっと、そして温泉がもっとあればよかった！
・いつ何をやるかを自分たちで選べるほうが良い。人はそれぞれ違い、みんなで同時に同じことをやるのが楽しい人ばかりではない。
・スケジュールがややタイト。朝食後になくてもよい時間があったので、朝８時まで眠れればよかった。ほうき作りは楽しかったけれど、いま都市の小さい部屋に住んでいるので、私にはお箸とスプーン作りの方が役に立ったと思う。

5）旅をするとき、どのように情報を集めますか？
　　出発前と旅行中の主な情報収集の手段を具体的に教えてください。
・旅をする際目的地は決めるが、リラックスしたり景色を楽しんだりするためになにも決めない時間を残しておく。
・インターネットで情報を調べる。なので英語のホームページを作ることが非常に重要。目的地についたらパンフレットを見て、やってみたいことを追加していく。
・（英語の）ホームページ、チラシ
・基本的にインターネットで。
・旅行前にインターネットで、旅行中は旅先のインフォメーションで。
・参加のやりとりのＥメールに詳しく書かれていて、メッセージはとても親しみやすく良かった。次回の旅行のためにパンフレットをいくつか集めた。

6）このツアーの印象はいかがでしたか？地元の方々になにかメッセージはありますか？
・都会の日常からぬけ出し、素敵な方々と出会い、いろいろな行事を楽しみ、日本食も作ることができた私たちのために料理をし、お家に受け入れてくださった皆様、ありがとうございました。みなさんにおみやげを持ってこなくてごめんなさい！
・そば作りがとても嬉しく、楽しんだ。皆さんとてもフレンドリーで、あたたかく歓迎してくださり素晴らしかった。
・とても楽しんだ、が少しくたびれもした。地元ガイドや受け入れてくださった方々、どうもありがとうございました！
・とてもよい印象で、お世話になった皆さんに感謝したい。食事は素晴らしく、宿泊施設はとても素敵で、皆さん助けてくださりフレンドリーだった。

(5) 活動写真

阿蘇市副市長への表敬訪問

農山村・田舎体験＆交流施設
なみの高原やすらぎ交流館

阿蘇カルデラ火山の立体地図
波野は、北外輪山の北東部

阿蘇市波野の集落を歩きながら暮らし＆文化を体験する波野フットパス（ガイド・ウォーク）

波野の集落の杉の森も歩く!!

波野フットパス途中のビューポイント（後方は、九重連山）

波野フットパスの途中立ち寄りの家庭訪問「縁側カフェ」での交流風景

阿蘇波野の地産地消による
地元食による夕食交流会

竹クラフト：ほうき作り体験

そば打ち体験"自分たちで食べる"そば"を打つ！！

自分たちで打った"蕎麦"を食す昼食会 "旨い！！"

モニターツアーの最後に、みんなで意見交換会・評価会

（6）現地開催者より所感

なみの高原やすらぎ交流館　館長　望月　克哉

1）計画準備段階

都市と農村の交流施設として、熊本県阿蘇市・波野地域に当施設がオープンして 12 年が経過する。子どもから家族、大人を対象に、日帰りおよび宿泊による農村生活体験の提供に取り組んでいる。これまでに、JENESYS プログラム（外務省）により、マレーシアの高校生をホームステイ含めた約 1 週間の受入や、国際交流 NGO と連携して、外国人と日本人の若者と地元波野の小学生が一緒にキャンプ体験する企画など、外国人の受入れを経験してきた。今回はこれまでと異なり、団体旅行者ではなく、休日をすごす個人および家族で訪れる外国人を対象に農村生活体験を提供する初めての機会となり、受入にあたっては、日本エコツーリズムセンターや当日随行する通訳案内士から助言をいただきながら、プログラムとスケジュールの計画および受入準備を行った。

2）実施しての所感

実施前には、以下のようなことを中心に考え、準備を進めてきた。

・外国人に適した活動プログラムはどのようものか？
・提供する内容と採算のバランスは取れるのか？
・当館は合宿研修施設だが、外国人の個人旅行者の受入は可能なのか？

実施当日には、地元の方々と楽しそうに交流をしている様子を目の当たりにし、参加者の方々から生の感想やアドバイスを得ることができたのは大きな収穫であった。特に、今回の参加者は、日本についてよく知る人たちであったので、用意したプログラムの良い点と改善点、外国人の目線から見たプログラム内容の評価、当施設に適した外国人旅行者層などについて、具体的かつ率直な意見を聞くことができた。

たとえば、提供した個々の活動は良い評価をいただくことができた。その一方で、活動が盛りだくさんだったので「もっとのんびりとすごす時間が欲しい」との指摘もいただいた。休暇に来たのだから、のんびりと田舎を味わいたいというニーズは、まさに参加者目線での指摘であり一番の発見であった。

実施前には、外国人受入のためにどのようにすれば良いのかが漠然としか見えていなかったが、今回の実施を通じて、「ゆっくりと波野の田舎を味わって頂く時間・空間を準備すれば良い」という一つの方針を得ることができた。

今回関わった地域の方々は、外国人の受入に戸惑いを感じつつも、交流を喜んでくれていた。

3）提供する体験プログラムについて

【ホームビジット】参加者は受入れ夫婦の心遣いを非常に喜び、とても評価が高かった。その一方で、次のような指摘もいただいた。

①「事前に知っていれば、（自国の文化として）よその家におじゃまする際は、プレゼントを持っていくので、持っていきたかった」

事前にプログラム内容を知らせていたが、こうしたコメントをいただいたことから、よりわかりやすい表記方法を検討したい。

②「もっとゆっくり過ごしたかった」「自分のペースで時間をすごしたかった」

今後は、全体のスケジュールに余裕を持たせ、ゆっくりと時間を過ごせるようにするとともに、参加者が自分の意思で選択できるような余地を残したプログラム構成を検討したい。

【食体験（いきなり団子、だご汁、そば打ち体験）】自らの手を動かして作った地域の食を味わうことは、非常に喜んでもらえることを実感した。また、食材を選ぶことで、ベジタリアンにも対応できる点も外国人向けの体験として適していると感じた。

ツアーの最後のふりかえりでは、地域の食材を活かしたピザづくりとそば打ちを選ぶとしたら、どちらが良いか質問したところ、全員がそば打ちを選び、地域の食を提供することが魅力につながることが確認できた。

4）今後の課題と展望

波野地区において、「ゆっくり地域の良さを味わう時間・空間」を提供することが外国人旅行者にとって魅力になることがわかり、当施設を拠点にした外国人受入の可能性があることを確認できた。また、当施設が合宿研修施設である点を踏まえて、高齢者層ではなく 30 代程度までの比較的若い利用者や親子連れを対象にするのがよいと、参加者からアドバイスをいただいた。そして、初回の訪日旅行者ではなく、数回訪れた経験があり、日本の生活文化に興味関心を持つ層であれば、非常に良い内容であると評価していただいた。

恒常的に外国人を受け入れるには、施設で個人客を受け入れられる時期と、体験プログラムを提供する地域人材が限られることが課題としてあげられる。特に、高齢化が進む中、地域人材への過度な負荷をさけるために、外国人旅行者受入については、時間をかけながらていねいに地域内の意識醸成を図ることが欠かせない。

今後も、地域の活性化の一つとして、「波野にいながら、世界旅行をしましょう！波野にいながら、外国から訪ねて来た人が、波野を感動してくれるムラづくり！」をキャッチフレーズに、地域に外国人の受入を少しずつ進められるよう働きかけていきたいと考えている。

このほか、外国人旅行者の受入に向けて、施設ホームページやパンフレットの英語版作成も課題として挙げられる。また、今回のような外国人旅行者の受入は可能だが、当施設単体では海外からの集客および予約受付をすることは難しいため、通訳案内士や地域の旅行社等、外部との連携による体制作りの必要性を感じる。

今後も、日本エコツーリズムセンターなどの専門機関から助言や支援をいただきながら、地域にじわじわと根付かせていきたいと考えている。

Ⅲ．まとめ

1.モニターツアー参加者アンケート分析

アンケート分析

6つのモニターツアーを全体的に俯瞰する。
それぞれのツアー自体には満足度が高く、82%が「大変満足」18%が「満足」で、不満を感じた参加者は0%だった。
加えて、人にすすめたいかの質問では、100%が「すすめたい」と回答した。
ツアーで不自由に感じたことについては、今回39%が「不自由なことはない」としながらも53%が「しいて言えば直した方がいい点がある」、8%が「不自由に感じた」ことがあるとの回答だった。総括して言えば、英語の表記・英語情報の少なさ、事前の的確な情報の伝達、ツアープログラムの時間的な余裕のなさ、団体行動においての違和感、衛生面での不備、WiFiなどの通信環境の悪さなどがあがっている。
情報入手先として、圧倒的にインターネットによるものであることがわかった。紙媒体の少なさや、ネットでの情報入手のしやすさに裏付けされていると思われるが、フェイスブックやブログ、口コミなどがあげられることからもSNSによる情報入手が主流となっている。またジャパンガイドやトリップアドバイザーなど、人気のある情報サイトの存在も大きいことがうかがえた。

１．満足度について
このツアーの印象はいかがでしたか？

①大変満足している	40
②満足している	9
③よくなかった	0
④非常によくない	0

２．リピートやプラスの口コミの可能性
今回訪ねた場所をお友達におすすめしたいですか？

①すすめたい	49
②どちらでもない	0
③すすめたくない	0

３．このツアーで不自由だったことはなんでしたか？

①不自由なことはない	19
②しいて言えば改善点がある	26
③不自由なことがあった	4

・ゆっくりしたペース（同回答2件）
・スケジュールがタイト（同回答3件）

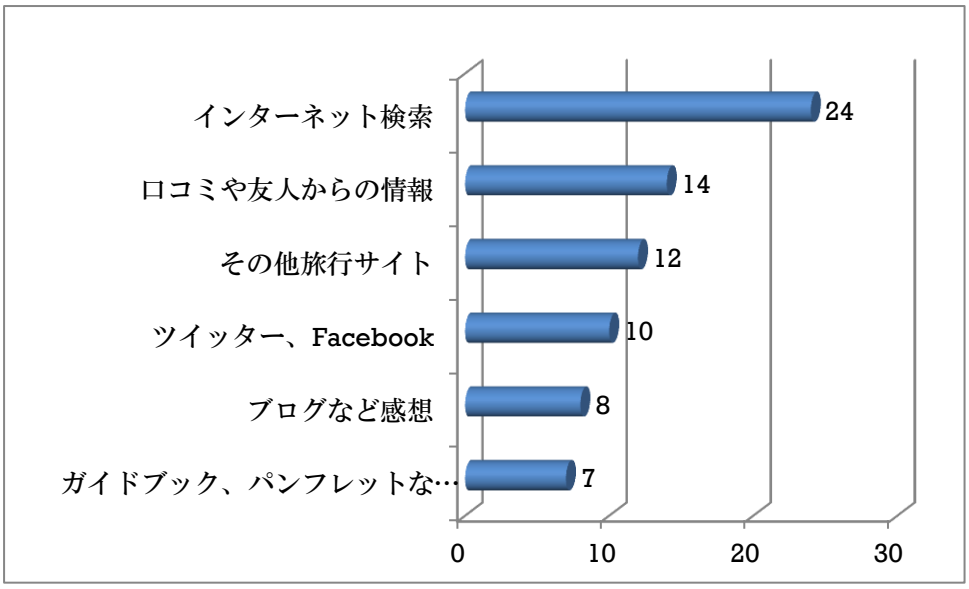
・リラックスできる時間
・ゆっくり食べたい。もっと説明を
・大きな木のあるところでゆっくりしたかった
・大人数の移動や説明を聞く時の気配りがほしい
・いつ何をやるかを選べる方がいい
・鹿の解体ができない人向けの代替案があるとよかった
・(神事など) 物事の意味を知りたいと思った
・より多くの英語の情報
・英語のサイン（トイレなど）あればもっと便利
・施設の英語ブローシャ - がほしい
・ツアーの内容を書いた書類や HP があるといい
・通訳のガイドとコミュニケーションのバランス。修学旅行のような扱いではなくて
・酒蔵見学は説明が多い。工程をもっと見たい
・民泊の共同生活の区分
・民宿に WiFi があるといい
・カヌーの前にシャワーが浴びられる事（事前案内）
・森に入る前に靴を変えて、と言ってほしかった
・できれば水を提供してほしい
・お酒の紙コップなどあるとよい
・ツアーの予約が大変だった
・交通は不便
・トイレに手洗いせっけんがない
・寝室とトイレがやや汚い
・移動中に説明等
・雨で移動が不自由
・ロビーの床がうるさい
・事前の持ち物情報などコミュニケーション
・お昼ご飯を持ってくるのは大変
③不自由なことの回答
・英語の情報（同回答 3 件）
・事前の必需品の確認
・家の中でスイッチをつけるものが多い

４．旅行の情報入手先
旅をするとき、どのように情報を集めますか？

・インターネット検索	24 件（1 位）
・口コミや友人からの情報	14 件（2 位）
・ツイッター、Facebook	10 件（3 位）

・ブログなど感想　8 件（4 位）
・ガイドブックなど印刷物　6 件（5 位）
・トリップアドバイザーなど評価サイト　4 件
・観光協会などの公式サイト　4 件
・ジャパンガイドなど案内サイト　2 件
・Booking.com などの予約サイト　2 件
・観光案内など、現地からの出版物　1 件
・旅行会社　1 件

上記のものをまとめると、以下のグラフになる。



2）インバウンドのモデルツアー企画の進め方

【地域の方々と共に地域を知り、打ち出すコンセプトをつくる】

〇地域の資源を知る

グリーンツーリズムをはじめ、地域資源を最大限に活かすツーリズム展開では、まず自分たちの地域のまとまりにおいて、来訪者にとって何が魅力なのか、どんなコンテンツがあるのかを知るところからスタートする。

「うちの地域には何もない」という話をよく聞く一方で、「うちの〇〇は日本一」という話も多く聞かれる。そのどちらにも言えるのが、もっとより深く見つめてみる、捉えてみることの大事さである。

世界中から来る人にとって、その地域の魅力的なものとは何か、その地域らしさを体現しているものは何か、地域の中だけの視点では見えてこない見るべき視点の切り替えが重要となる。

まずは、自分たちの地域で来訪者に伝えたいものを、地域の資源として皆さんで出し合い、共有することから始まる。

〇世界に対して地域らしさを打ち出すコンセプトを創造する
農家民宿、農家レストラン、体験教室など、地域には多くの資源が見つかると想像できる。それでもその１軒１軒だけでは「点」であり、大抵の場合、地域の広がりにはなっていないことが多い。大事なことは、外へ打ち出す時に、１つのキーコンテンツがあるにしても、「面」的な地域のイメージを伝えられる、いわば「コンセプト」である。
南仏プロバンスと言えばハーブのある暮らし、であるとか白川郷と言えば合掌造りなど、それぞれにイメージがわくように、これからの地域を観光の場として打ち出す時に、この面としての地域の魅力は何かを、しっかりと作り上げていくことが望まれる。それも外から持ち込んだものでは意味がなく、どこかで無理が生じる。
重要なことは「地域の DNA」とも言うべき、その地域が脈々と培ってきた文化や生活、生業、その地の自然に則ったものであること。その「地域の DNA」を皆さんで見つけ、磨くこと、それがコンセプトにつながっていく。

〇地域の皆さんとで調べ、考え、つくりだす
外部から専門家を呼んで計画をつくる。外部の知見や、内部だけでは得られない視点も計画づくりには重要な要素である。その際、もう一つのはずしてはならないのが、地域の皆さんによる協働だと言える。誰かに示された答えに取り組むのではなく、当事者となる自分たちで調べ、考え、答えを導き出すということだ。その過程を地域の皆さんと一緒に経験することが何より重要で、このような協働によって報告書だけでは得られない経験値と相互の信頼感が形成される。

【ツアープラン組み立て方のポイント】
〇旅行者に無理ない時間設定
せっかくだから時間内にできることはできるだけ体験してもらおう、と考えやすいが、参加する側のペースやニーズを考えると、必ずしも目いっぱいのプログラムが良いわけではない。ましてや地域から一方的に提供するのがツアープログラムでもない。
余裕を持ったスケジュールを組むことを念頭におく。そのことで、不意のアクシデントやスケジュール変更などにも十分に対応でき、予定通りにいかないことによる不満足感を軽減することにもなる。

〇プログラムは詰め込み過ぎず、流れをつくる
まずスケジュールを組む際、参加者が本当に地域を楽しみ、交流し、心に残すにはどうすべきかを考える。地域にある資源をすべて活かそうとするのではなく、全体をコンセプトに沿ったテーマを持たせ、その中での組み合わせを考える方が魅力的になる。そして重要なのが体験の流れである。こま切れで一つ一つの体験を並べるのではなく、参加者の意識が地域に対して無理なく深まっていくように、「流れ」を作ることが望まれる。数日のプランであれば、どこにこのツアーの感動ピークを設定するか、そのためにどんな準備をしていくか、ツアープログラムは参加者にとってつながりのある時間であることを、念頭におきたい。

〇ツアーのスタート時と終わり方に注力する
人は知らない地域で、知らない人と過ごすことに、少なからず普段は持たない緊張感を持っている。ツアーのはじめは特にその緊張をほぐし、無理なく共に過ごす参加者間、地域の方々、進行役とコミュニケーションがとれるよう配慮が必要である。あいさつをする、自己紹介をする、人との距離を縮める簡単な体験を共にするなど、俗に言うアイスブレイクをうまくとることが効果的である。また終わり方も重要で、ツアー後の満足感の度合いでさらに情報が拡がるため、参加者自身のいい思い出とする、今後につなげるよう終わり方の工夫をぜひ用意したい。

【法的な規制を知って対応する】
〇旅行業法の対応
参加費をとって参加者を集め、移動や宿泊を伴うツアーを行うには、旅行業法による資格を持った事業者である必要がある。地域の協議会や協会などでは、旅行主催のできる法的な資格を持っていないことが大半で、有料のツアープログラムで参加者を募って実施する際は、資格を有する事業者と組んで実施することが求められる。

〇道路運送法の対応
同じく人の輸送についても、公共交通機関のないところでは、個人の車やレンタカーなどを使うケースも多々見受けられる。これも道路運送法に触れる恐れがあり、有償で自家用車を使って人を移送することはできない。少なくとも無料による送迎とするか、バス会社など旅客運送事業者に依頼することが必要である。

〇通訳案内士の活用採用
通訳案内士は国家資格で、外国語によりガイドを行うにはこの資格が必要になる。地元ガイドによる資格取得が望ましいが、資格取得の難易度を考えるとかなり難しいといえる。有資格者を雇用もしくは有償で依頼して対応することが望ましいが、難しい場合は日本人ガイドと通訳者の２人１組で対応することが求められる。

〇個人情報の取り扱い
連絡先や生年月日など個人情報は、個人情報保護法によって守られる。ツアー実施にあたっては連絡先や住所、年齢、パスポート番号などを聞いて名簿化することになるが、この情報が外部に漏えいしない、またツアーの目的以外に利用しないことが求められる。名簿の管理は、データの場合はパスワードの設定、管理者の取り決め、保管ルールや廃棄の徹底など各実施者でしっかりと取り扱う仕組みを決めて対応する。
併せてツアー中の写真撮影についても、事後の広報的な活用も含め、予め参加者の承諾を取っておく。

〇保険への加入
当然のことながら、不慮の事故やけがなどに対応する保険の加入が必須である。単発のツアープログラムなどでは旅行保険などが適しており、通年実施する場合には施設や団体での包括的な保険もある。参

加者の傷害・死亡保険に対応する旅行傷害保険と、事故に際して物損や人的被害に対応する賠償責任保険の 2 種は加入すべきである。詳しくは保険会社と協議し、最適な保険の加入を行い、参加者には保障や条件について明示することが求められる。

【広報と集客】

〇外国語で情報をまとめウェブへアップする

今回のモニターツアーの結果からも、外国人旅行者の情報入手源の中心はインターネットによるものが多かった。少なくとも英語のサイトがあることで、多くの外国人は地域の情報を得ることができる。多くの言葉を要する説明よりも、画像や必要最低限の情報がまず必要で、日本語ページをそのまま訳するのではなく、外国人旅行者として必要な情報を的確に発信したい。旅行するにあたっての、気象や環境の情報、必要な持ち物、特には地図のほかアクセス情報、ATM など金融拠点の有無なども必要な情報だという。

〇旅行者が重視している情報源へアプローチ

外国人旅行者がよく訪れ有用な情報源とされるサイトがある。Japan Guide、MATCHA、日本の窓、TripAdvisor、Agoda、Booking.com、Expedia、JAPANiCAN.com などで、ガイドブックでは Lonely Planet、Rough Guides、Frommer’s などがあげられる。そうしたサイトやガイドに情報を流していくことも、広報としての効果が期待できる。

〇参加者からの口コミが最大の広報

外国人旅行者による口コミがもっとも効果があるとされ、実際の参加者による事後の発信が次の集客にもつながる。特にフェイスブックやブログなどの SNS による拡散力は大きく、参加者との継続的なつながりも生まれる。参加者がそのツアーで感動すると、その地域へのファンとなり広報マンになることを意識したい。これは逆のパターンもあり、不満の残る体験では、マイナスのコメントが拡散することになるので、当然ながら内容が問われている。

〇ワンストップの情報窓口が求められている

外国人旅行者が地域の情報を集めている時に、必要とする情報が揃って入手できること、移動から宿泊、体験、交流など、一度に問い合わせによってすべて対応ができることは、大きな魅力となる。こうしたワンストップの情報窓口は、まだ日本の地域で整っておらず、ある種のコンシェルジュのように対応できる受け皿があると、非常に有用なものになると考えられる。

【実施前に】

〇参加者との事前のコミュニケーション

あるプログラムを主催して参加者を募集する場合、参加者からの申し込みで終わらず、開催までの間に適宜情報のやり取りが必要となる。ツアーに必要な事務的な内容はもとより、地域情報を事前に知ってもらう、参加への期待感を高めてもらうコミュニケーションが望ましい。

〇事前に確認しておくべき情報
参加者との間で次の点については必ず、事前に確認しておきたい。
・食べ物アレルギーの有無、宗教上の理由やベジタリアンであることによる食事制限など
・ハンディキャップの有無（補助を要するか、留意すべき点の把握）
・使用言語（母国語だけでなく、コミュニケーション可能な言語）
・直前の訪問地など（場合によってのみ、伝染病危険地域や紛争地域からの渡航者など事前に把握するもの）

【実施後に】
〇参加者からのフィードバック
アンケートなど参加者からのフィードバックは、その後のツアーへの貴重なアドバイスとなる。できるだけ協力をお願いし、当事者として必要な内容を適切に聞き出しておきたい。項目はなるべくしぼり、設問もなるべく変えないことで継続的な傾向も押さえることができる。

〇実施側のふりかえりと事後への活かし方
一方で、受け入れ側も実施後は関係者によるふりかえりと反省会を行い、プログラムの精度を上げるブラッシュアップや、問題点などが上がった場合の解決をはかる。プログラムは一度できて完成ではなく、参加者とともにいわば育てるものと理解し、よりよい内容へと高めていくことを望みたい。

〇さらなる広報とファンづくりにむけて
【広報と集客】でも取り上げたが、参加者が満足しファンになってもらえれば、事後の SNS などによる情報拡散と、口コミによる次の集客につながることが期待できる。マスへの広告を行うよりも、実際につながる人による広報によって、地道ながら着実な地域の広報を進めることをねらいたい。